

ケアセンターけやき

症 例 概 要 利用者：女性 90歳代 要介護3

利用期間：令和3年1月～現在

既往歴：2020年11月頃 慢性硬膜下血腫 2020年12月頃 硬膜下血腫の再発 認知症 脂質異常症 高血圧症

経 過 ：慢性硬膜下血腫術後、リハビリ目的で竹川病院に転院される。独歩レベルまで回復されるが認知機能の低下があり、自宅での生活が難しいため退院後ケアセンターけやきグループホーム入所となる。 帰宅願望が強く不安の訴えが多かった。また、ものとられ妄想もあった。そこで、日常生活で出来ることを増やし、役割を持っていただく事で自信が持てるようになり、笑顔で穏やかに過ごせるようになった。

内 容

自宅で転倒された3～4ヶ月後、慢性硬膜下血腫が判明しT病院にて手術を受け、リハビリ目的で竹川病院に転院。独歩レベルまで回復されるが、見当識、記憶障害がみられ、危険認識が乏しく転倒のリスクあり。常に見守りが必要な状態なため、要介護認定を受けている娘様と自宅で暮らすことが難しく、退院後はケアセンターけやきグループホームに入所となる。

入所当初は帰宅願望が強く、衣類を詰めた鞆を手に持ち、エレベーターホール前で職員に「家に帰る」と訴えることが多く見られた。また、不安そうに「何故ここにいるのか」「誰がここに連れてきたのか」と常に職員に訴え、「○○がない。泥棒がいる」と話すことも多くあった。訴えが強いときは、説明しても理解困難で、興奮状態になること見受けられた。

そこで、これまでの生き立ち等を伺い、かつては当時の従軍看護婦として働き、結婚後は獣医の夫の動物病院を手伝っていたことを楽しそうに話される事から、自分の人生に誇りを持っている方だとわかり、ご本人の自尊心を大切にしたい関わりをすることで安心した生活が送れるのではと考えた。

まず、ご本人のノートに入居した日や娘様と一緒に来た事、コロナ禍で外出が難しい事等、その時の出来事をご自身で記入して頂き、不穏の際はけして否定せず職員と一緒にノートを見て確認する事で安心されるようになった。

また、毎日の日課として、お茶入れや食事の盛り付けをして頂いたり、一緒に環境整備やシーツ交換を行い、当時看護婦としての経験を活かし人のお役に立つという自信につなげた。けやきでの生活に溶

け込まれるようになり、帰宅願望や不安な訴えが聞かれなくなり、また、他の利用者さんの椅子を引いて座りやすくしてくれたり、本来の優しく思いやりのある姿が見られるようになった。

ご本人のこれまでの人生や生活歴を知り、利用者さんの自尊心を大切にされた関わりを持つことで気持ちが安定し、安心して過ごして頂ける事が出来た事はキラキラ介護賞に値するとし、推薦させていただきます。